

令和6年度 地域づくり推進委員会 研修会報告書

1 目的

緑ヶ丘地区の特性を生かし、地域住民が主体となったふるさとづくりの推進や安心安全のための活動及びごみ減量等の促進を通して住みやすい地域づくりを目指すため、先進的な事例を視察、研修をする。

2 視察日時 令和6年9月12日(木) 午前8時～午後5時まで

3 研修先 警視庁 警察博物館(ポリスミュージアム) ほか

4 研修内容

(1) 警視庁 警察博物館(ポリスミュージアム)

【空き巣が侵入をあきらめる防犯対策】

警察庁「令和4年の犯罪」によれば、侵入窃盗の認知件数を場所別に、発生場所が一戸建住宅 33.0%、共同住宅（3階建以下）、7.8%、共同住宅（4階建以上）4.3%である。また、発生場所が住戸であるものは、全体の 45.1%である。住戸で発生した侵入窃盗は、商店で発生した侵入窃盗の約 6.9 倍となっており、侵入窃盗のうちかなり多くの件数が住戸で発生している。住戸の中でも、特に一户建住宅が狙われやすく、アパートやマンションなどの共同住宅が狙われることもあり、油断はできない。

空き巣の侵入手段は無施錠が 39.3%と最も多く、侵入に時間がかからない家が優先的に狙われている。次いで、ガラス破りが 34.0%となっていることから、ガラスに防犯フィルムを貼ったり、ガラスを防犯性能の高い合わせガラスに入れ替えたりすることが有効である。

また、空き巣の侵入口については、窓が 51.8%であり、表出入口が 28.4%となっている。このことから、窓と表出入口を中心に防犯対策を講じる必要がある。

侵入に5分かかると約7割の犯人があきらめ、10分以上かけても侵入できない場合は、犯人のほとんどがあきらめると言われている。空き巣の被

害に遭いにくい家は、「家に侵入するまでの時間を少しでも長くする工夫」を考えると良い。

【補助錠の有効性】

警察庁の Web ページである「住まいる 110 番」では、ピッキングなどのドア錠破りへの対抗する対策として、補助錠の取り付けが挙げられている。侵入口である玄関ドアなどに錠が 1 つだけであれば短時間で解錠して侵入できるようなケースでも、「補助錠」と呼ばれる錠がもう 1 つ付けられ、2 つの錠で施錠されている状態であれば、解錠するためには相応の時間がかかることになる。

空き巣はできるだけ短時間で侵入して犯行におよび逃走したいと考えているので、侵入口に補助錠が取り付けられ、ワンドア・ツーロックの状態になっているのを見れば、侵入には相応の時間がかかると想定されるため、侵入をあきらめる（または、ターゲットを変える）可能性が高くなる。

【地域住民相互の声掛け】

地域において住民間のコミュニケーションが活発で、「ご近所さん」がよく通るような地域は、空き巣などの侵入犯罪の被害に遭いにくい。

近所の人に顔を見られたり声を掛けられたりすることは、犯行後にその人たちが目撃者として証言を行う可能性があるので、犯行の痕跡を残したくない空き巣にとって好ましいことではないからである。このため、近所の人などに声を掛けられただけでも、空き巣などを行おうとしている者はその場から立ち去るケースが多くなる。

しかし、駅の近くや繁華街など不特定多数の人がよく通る場所の家は、空き巣のターゲットとなる可能性が高まる。

この理由は、家の周囲に人がいても通行人から見て関係者か不審者か判断することが難しいため、また、人込みに紛れて侵入や逃走を行いやすくなるためである。

【家の死角をなくす】

空き巣は、死角がない家を嫌う。家の周囲に死角がないと、侵入のための作業をしている姿を通行人に見られる可能性が高まるためである。死角がないような家は、侵入犯罪のターゲットから外される可能性が高くなり、逆に、玄関や窓、勝手口など侵入口となり得る場所の周りに塀や樹

木、垣根などがあって通行人から見えない死角ができているような家は、侵入犯罪のターゲットとして狙われやすくなる。

【ペットの有効性】

犬を飼っている家は、空き巣などの侵入窃盗に遭いにくい。

犬が侵入者を威嚇して激しく吠えるような状況になれば、近所の人などが何事かと思って見に来る可能性が高く、犬が侵入者に噛みつく可能性もあり、侵入者にとっては、吠える犬は大きな障害となるからである。

不審者に吠えるかどうかは、犬種や犬の性格、受けたトレーニングの内容によっても変わってくる点に留意が必要である。

【防犯カメラやセンサーライトの有効性】

玄関や窓の前に防犯カメラが設置されている家では、空き巣が下見に訪れた時点で侵入を諦めるケースが多くなる。

防犯カメラの効果は、事件発生時の映像を記録し追跡に役立てられることだけではない。カメラがあるというだけで、犯罪者に犯行を諦めさせる「抑止効果」が期待できる。抑止効果だけを狙ってダミーカメラを設置する家もあるが、犯人にダミーであることを見破られる可能性もある。犯罪被害に遭うリスクを低減させるためには、現場の映像をしっかりと記録できるカメラを選ぶことが重要である。

人が通りかかると自動で点灯するセンサーライトを設置することも、空き巣などの侵入犯罪対策として有効である。センサーライトの設置で、在宅時には不審者が来たことに気づきやすくなる。

また、侵入者は、自分の姿や面相、服装、背格好が見られることを嫌がることから、多くの場合、センサーライトの設置されている家はターゲットから外されることが期待できる。

また、突然ライトが付いて、侵入しようとした者が驚いて逃走するケースもある。

空き巣などの犯罪を行おうとする者が、下見の段階でセンサーライトを見つけた場合には、「この家は防犯意識が高い」と考え、ターゲットから外す可能性がある。

【防犯用の砂利の有効性】

家の軒先や庭に防犯用の砂利を敷いておく方法も有効である。防犯用の砂利は、砂利を踏むだけで高く大きな音が出るため、家の住人や周囲の人に不審者の侵入を知らせることができる。

玄関や庭のほか、死角となりやすい人目に付かない場所に防犯砂利を敷いておくことで、一定の防犯効果を期待することができる。

【今、一人ひとりができる防犯対策】

近年、市内では、空き巣、居空き、忍込みが多く発生している。

- ・ゴミ出しやご近所へ出かけるときでも、ガキをしっかりとかける。
- ・ポストや表札等をチェックする。空き巣などは、ポストや玄関周りに仲間に分かるように印をつけることがある。見覚えのないシールが貼ってあったり、文字などが書かれていたら、必ず消す。
- ・空き巣などは、侵入に時間がかかるのを嫌う。ほとんどは、侵入に5分以上かかると諦めるので、2重ロックや窓ガラスが割られないように透明シールを貼るのも効果的である。防災上でも、ガラス飛散に効果がある。

※ 空き巣⇒家人等が留守の時

※ 居空き⇒家人等が在宅し、昼寝、食事等をしているとき
居直り強盗の恐れあり

※ 忍込み⇒就寝時の時 居直り強盗の恐れあり

- ・車、自転車、バイク対策

自宅の敷地にとめてあっても、どろぼう(窃盗犯)は、本気である。

- ・2重ロックをする。
- ・駐車場等には、センサーライトをつける。空き巣にも効果がある。
- ・電子錠(イコライザーなど)だけではなく、ハンドルに付けるバー状のロックも効果的である。

地域住民同士で、声を掛け合い、安心して安全なまちづくりに参加することが、自分の財産、生命を守り、地域全体が安心安全なまちへとなる。

- ・毎月、27日の防犯パトロールへの参加

緑ヶ丘地区では、毎月、27日の交番の日に合わせ、防犯パトロールを実施している。

※ 緑ヶ丘交番前集合・15時スタート

(7月・8月・9月は17時スタート)

(2) 豊洲市場・千客万来

【千客万来のコンセプト】

「豊洲 千客万来」は、文字どおり多くの客に来場していただき、賑わいが生まれていくことを願って名づけられた。ロゴマークは、日本で古くから使われてきた「水引」をモチーフに作成され、水引には、「人と人を結びつける」との意義があり、たくさんの人に来ていただき、長く愛される施設になるようにとの思いが込められている。

江戸時代から続く市場、豊洲市場の伝統を生かし、自然からの贈り物「温泉」を寛ぎと幸せに変えて、多くの人に笑顔になっていただく。

「豊洲 千客万来」は、築地特有の貴重な財産である賑わいを継承・発展させるとともに豊洲市場本体施設と連携し、豊洲ならではの活気や賑わいを生み出すことで、豊洲市場の魅力を高めつつ、地域のまちづくりや活性化に貢献することを目標としている。

【千客万来で研修をするねらい】

地域住民の間で、身近な地域固有の個性豊かな伝統芸能や美術工芸品の鑑賞、地域イベントへの参加、歴史的な建造物、史跡等の保有、活用の取組みの機運は高まっている。

これらの伝統的な資源は、次世代に継承してゆくべき市民全体の共通財産であり、自らの地域を見つめ、更なる伝承すべき文化の発見、その継承に向けた自主的な取組みが必要である。

また、地域文化を支える地域住民や企業との連携を図りながら、一体的、総合的な保存、活用、伝承を推進することで、地域の魅力が創出され、地域の「絆」を強固にするために、先進的な事例である豊洲 千客万来を研修場所として選定した。

【地域文化の保存活用】

地域資源を活かした地域づくりを推進するために、次の事項を客観的に判断し、総合的な保存活用計画の策定が必要である。

- ① 地域の伝統文化、文化財の現在に至る経緯
- ② 現在の状態、実態
- ③ 保護の必要性
- ④ 地域住民と企業等との連携
- ⑤ 観光資源としての可能性
- ⑥ ハード、ソフト面での施策、支援
- ⑦ 教育現場との連携

【後継者の確保・記録の作成】

地域イベント、民俗芸能等は、時代の影響を受け、変化、消滅の危機を迎えている。それらを継承するためには、歴史、おこりの経緯、などを調査し、伝承や普及等の目的に合った記録の作成が重要となる。

また、これらを継承する地域主体の継承者の確保、育成は地域づくりの核となるものであり、その如何によって隆盛、衰退の分かれ目となってくる。

従って、歴史、おこりの経緯を明確にし、この事実を公開するとともに後継者の確保に力量を注ぐべきものである。

【拠点の充実】

文化的、歴史的な地域資源を保存、継承するために、地域住民等が集い、話し合い、継承研修の場としての拠点づくりは重要である。

誰もがその拠点を訪れ、常設されたその地域の文化、芸術、歴史に触れることができるようにすることは、文化等を継承するために重要である。

また、その運営は、地域住民が積極的、主体的に行うことで、活動の枠組みが構築され、その熱意が後継者や来場者へと伝播するものである。

【防火、防犯対策】

文化的、歴史的な地域資源には、有形のものもあり、火災を始めとした災害やいたずらや破壊等の防犯面での対策も重要となってくる。

また、昨今、SNS を利用した嫌がらせやフェイク動画等の地域資源の価値を貶めるものにも気を配る必要がある。

【専門員の配置】

文化的、歴史的な地域資源を継承させ、発信するためには、専門的な知識を有する者の配置は必須である。

しかしながら、必ずしも学芸委員等が地域住民とは限らないため、広範囲の知識を習得するための研修の充実を図る必要がある。

【継承者の高齢化対策】

現在、文化的、歴史的な地域資源を所有、認知されている地域住民は、高齢化が進み、また、継承者不足が課題となっている。

新住民を始め、2世代目、3世代目の地域住民等の若返りを図るとともに、他地域住民でも文化的、歴史的な地域資源に興味のある方を積極的に取り込み、次世代の担い手として育成することが大切である。

【警視庁 警察博物館】



展示室



【豊洲市場 千客万来】



施設外観



東京都ブース



観光案内所



番屋(インホメーション)



地産木材の使用